

もの作りの原点 匠の技を見た

10月31日、まきがね公園体育館で、産業博覧会のびば地場フェスタ in ENA 2010が開催され、約1万2千人の人の出でにぎわいました。ことしは「もの作りの原点を探る。一つ一つ、人の手から始まる産業の原点」をテーマに、恵那の匠が10人集り実演をしました。

ほかに、もの作り企業の改善提案や、ジュニアエコノミカレッジの販売実践、9組の高校生プレゼンテーション大会、128作品の応募があった発明王コンテストの表彰式、商工会議所と恵南商工会の体験イベント、働く車大集合などの催しがありました。市内の企業やグループを中心に展示や即売、体験コーナーなど、151ブースを設置。また市内6中学校の生徒約70人が、アシスタントを務めました。

匠の実演を見学する来場者は「すごい」「きれい」と歓声を上げ、その技に興奮気味でした。子どもも大人も楽しそうに、また興味津々な様子で、イベントブースでの体験や展示ブースの見学をしました。

◀6組の小学生がジュニアエコノミカレッジで販売実践

◀普段触れることの少ない働く車が大集合

◀発明王に輝いた大島蘭奈さん(串原小5年) 作品テーマは「ゆかがひんやり」



匠の技

1. 多色刷りゴム版画を彫る古山俊さん
2. 寄せ木による建具制作を実演する所正幸さん
3. ガラス工芸体験で指導する小栗寛之さん
4. 菓子で創作アートを作る水野守道さん
5. ロクロの実演をする小林一雄さん
6. わらぞうりを作るまめな会の会員
7. 盆栽アートの体験で指導する安部隆義さん
8. 能面制作を実演する奥山完治さん
9. 竹細工で昆虫などを作る伊藤正夫さん
10. 飾り包丁を実演する永井敏人さん

えな環境フェア2010

エネルギーの大切さを学んだ

11月6日、市民会館とその周辺で、えな環境フェア2010が開催。来場した約4000人は、楽しみながら環境について学びました。

ことしで4回目の同フェアのテーマは「知ろう 限りあるエネルギーの大切さ」。実行委員会の「省エネのコツ」ブースほか、市内外の44ブースで環境への取り組みなどを紹介しました。実行委員会は「家庭でできる省エネのコツ」を提案、同フェアのシンボル「緑の塔」を制作、展示しました。

各団体の取り組みや、かんきょうとくらしの絵手紙、小中学生の環境テーマ作品、U字溝らせん発電機などを展示。屋外では、木くずとバイオ肥料の物々交換や電気自動車の試乗がありました。ほかに、リサイクル品の抽選会や参加賞がもらえるクイズ、自然エネルギーを知ってもらおうセミナーなども行われました。

このフェアは、モーターボート競走施行者協議会の助成を受けて、開催されました。

▶環境がテーマの小中学生の作品と壁新聞を展示

▶1つの部屋で家族団らんする ことは省エネにもなる

▶セミナーの講師、中嶋健造氏(PO法人土佐の森救済隊事務局長)



1. 今回のシンボル「緑の塔」で木のにおいを感じた
2. ハイビスカスの色素で太陽電池作り。ライトの光で発電すると音が鳴った
3. 「省エネのコツ」のブースでは乗り物と乗り方でガソリンの節約ができることを学んだ
4. 小水力で発電するU字溝らせん発電機
5. 間伐材を削ってマイはし作りに挑戦
6. グルグル回して手回し発電実験を体験

省エネ

